秀明改

編　集
アンチカルト編集室
発行所
家族を新興宗教から守ろう
fujiyahoko@excite.co.jp

リセット

秀明会ＯＢが作っている秀明信者のためのページもご覧下さい

イラクの少年にも浄霊

記念祭にて会長先生御講話

神慈秀明会信者の方から、次のような書き込みがインターネットの掲示板にありました。

このあいだ、札幌で会長先生を呼んで、記念祭をしました。

そのなかで、イラクの目の手術をした、モハマドくんの話をしました。

なんと、イラクに秀明の信者がいて、その子に浄霊していたそうです。

日本にきて、入院中も浄霊をしていたそうです。

モハマド君も「浄霊、浄霊」と叫んでいたとのこと。

ほとんどの人が、真に受けているようで泣いていました。

会長先生が帰るときもみんな土下座して、見送りしました。

私（記者）も、最初にこの話を聞いたときはビックリしました。

沼津の病院に入るモハマド君

「あの戦闘地域のイラクでまで秀明会の浄霊は行われているのか！」なんて思ってしまいました。

ところが、その後、沼津の病院やモハマド君の治療実現に尽力した沼津ロータリーアクトクラブ関係者にメールを送り事情をお聞きしたところ、沼津ロータリーアクトクラブから回答があり、秀明会で言われているような内容は、「デマ」である、と担当者は断言されました。

こうした一連の経過がインターネットで詳報された結果、平成１６年８月上旬になって、秀明会本部から一部の秀明会関係者に、「サマワでの浄霊の件も、モハマド君に対する浄霊の件も全てウソだった。ｋ北さんのナイチンゲール賞の話もウソだった。ｋ北さんがナイチンゲール賞の証拠として出したメダルも偽物だった・・・」と報告がされた。

しかし、秀明紙でも紹介され、会長自らも一旦は信者に伝えたおかげ話だったのに、一般信者にはそれがウソだったとは、一切報告はされていない。

エーッ！この話、全部ウソだったの？

この件に関する詳細な内容が、
http://www.geocities.co.jp/Technopolis/9575/okagebanashi.html
に、「おかげ話ねつ造」と題して掲載されています。

四月月次祭報告

中東におけるお働きと奇跡

Ｋ北Ｊ子（京都）

明主様ありがとうございます。

私は２月１３日から２月２６日まで、緊急医療救護第二班として、パム（イラン）にて医療活動をお許しいただきました。とてもハードな救護活動でしたが、明主様のご守護によって、無事任務遂行をお許しいただきました。ほとんど不眠不休の活動で、何ものどを通らなくなっておりました。唯一の食料は自然農法のお茶でした。自然農法のお茶はのどをスムーズに通り、自然農法のお茶だけで救護活動をさせていただくことができました。

（中略）今月再度、医療活動の依頼があり、２４日から３０日までサマワの「ムサンナ母子病院」に行ってまいりました。現地２６日、サマワ巡回中、テロ活動がありました。私は携帯電話が吹っ飛んで、壊れるだけで済ませていただきました。明主様ありがとうございます。

運動場にてサッカーで遊んでいた子ども二人が犠牲となりました。救護活動に携わったのですが、お救いはできませんでしたが、最期のお別れの前に処置をさせていただいた後、ご浄霊のお取り次ぎをお許しいただきました。どうか、子どもたちが霊界で救われますようにと、明主様にお祈りしました。苦痛に満ちた子どもたちの顔が微笑みのような表情となり、頬がピンク色になってまいりました。平山ドクターも実際に見られて、びっくり仰天されました。「亡くなったとは思えない」と仰っておられました。子どもたちのご両親からは、この子は明主様にお救いいただきましたので、私たちも救われましたと言っていただきました。

また、戦争のために引きこもりで精神を病んだ状態の青年にご浄霊のお取り次ぎをさせていただいたら、「光が見える。気持ちが救われました。」と言っていただきました。私が帰国する数日前から、「日本に連れていってほしい。秀明ファミリーの先遣隊は、いつごろサマワにやってくるのだろう」と私に尋ねてきました。現地の期待度は高かったです。

明主様はみ教えで、『最大の争いである国と国との戦争であるが、これも私は、時が来れば一挙になくすことができるだけの力も持っているから、安心して貰いたいのである』と仰っておられます。

私は、パムとサマワでこのお言葉に涙を流しました。会主様が一大決心をされて、私たち信者を正しい明主様信仰にお導きいただいたからこそ、私たちは真の幸福を得ているのだと思わずにはおれませんでした。

明主様のご守護にて、無事任務遂行をお許しいただき、無事帰国をお許しいただきました。明主様と会主様と命様に心から感謝を申し上げたいと思いました。明主様、至らない私ですが、地上天国建設、世界平和を志すご用に励みたいと願っております。

（機関紙「秀明」第410号（2004年5月1日発行）より抜粋）